

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 崎田 誠志郎

論 文 題 目 沿岸域における小規模漁業管理の多様性

(Local Diversity of Small-scale Fisheries Management in Japan)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科教授 横山 智

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科教授 高橋 誠

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科准教授 伊賀聖屋

副 査 国立民族学博物館人類文明誌研究部教授 池谷和信

論文審査の結果の要旨

小規模漁業は、多様な水産物を供給するのみならず、沿岸域住民の生活維持にも重要な役割を果たしており、これまで、零細な漁家経営の改善や持続的な資源利用の実現を念頭に置いた社会経済学的研究、共同体基盤型管理（CBM）といった慣習的管理形態の実態を明らかにする地理学・人類学的研究が蓄積されている。しかし、ローカルな主体の小規模漁業管理における役割が強調されてきた一方で、管理の地域的多様性に焦点を当てた研究蓄積は未だ乏しい。そこで本論文は、ローカルな沿岸域における慣習的・自主的な小規模漁業管理の存続と変容の多様なあり方とその背景を解明することを目的にした。

本論文は、6章で構成されている。第I章では、小規模漁業の定義について日本の文脈を踏まえて検討し、小規模漁業を中心とした資源管理研究の動向を整理した。第II章では、小規模漁業管理の制度的・組織的基盤とされてきた漁業法と漁協に着目して、日本の漁業管理制度に関する先行研究をレビューし、本研究の目的を提示した。続く第III章から第V章では、事例地域として設定した和歌山県串本町および高知県柏島で実施した資料収集とフィールドワークに基づき、まずは地区の漁場管理に関わる主体とその役割を明確にした上で、管理の公的制度と自主的制度の結びつきを検討し、空間的・時間的にその変容プロセスを提示し、ミクロなスケールでの共通点・相違点が生じる要因を解明した。和歌山県串本町では、和歌山東漁協下の3地区で、度重なる漁協合併を経て自主的な管理組織で漁場が管理される事例、さらに11地区で営まれるイセエビ刺網漁におけるCBMの内容と実践が地区間で多様である事例を分析した。そして高知県柏島では、漁業者らによる宝石サンゴ漁への偏重と他の漁業の実質的な管理放棄が生じている事例を分析した。これらの結果を踏まえ、第VI章では、ミクロ・ローカルな地域における小規模漁業管理の多様なあり方を「形態の多様性」と「機能の不均質性」という観点から考察し、さらに小規模漁業が媒介する地域の自然-人間関係について論じた。

これまで、日本の小規模漁業管理は、慣習的・自主的な漁協や漁業者集団によるローカルな慣習・組織と公的な制度が組み合わされた特殊な制度だと捉えられてきた。しかし、小規模漁業管理の実態はそうした単純なものではなく、各地の自然環境や社会環境、それらの変動に対応する漁業者集団の応答によって地域ごとに多様な管理形態が形成されていることが明らかになった。本論文では、ミクロな多様性や行政主導による小規模漁業管理に関する実証研究を通じて、現代における小規模漁業管理の存続と変容を分析することを試みた点に研究視点の独創性が見られ、それを理論と実証の両面において導き出した点で、地理学分野に大きな学術的な貢献を果たしたといえる。また、本論文の成果はCBMによる資源管理の研究およびコモンズ研究の分野にとっても貴重な成果をもたらし、今後の研究の展開にも期待が持てる。よって、本論文の提出者、崎田誠志郎氏は、博士（地理学）の学位を授与するにふさわしいと判断した。